

135  
2007年2月21日  
毎日新聞創刊135年



「教育に情熱をかけた」。次なる夢を語る山本徳次社長

## たねやの135年の歩み

### 近江商人の精神を引き継ぎ、情報を発信

「毎日新聞今年、創刊135年を迎えました。お客様の寿命は30年」と言われま

「一番大きかったのは昭和初期の東京・日本橋三越本館への出店です。それまでは店

1872(明治5)年、近江商人発祥の地である近江八幡で産声をあげた和菓子「たねや」は今年、創業135周年を迎える。1984(昭和59)年の東京進出を足がかりに全国展開に成功し、パームクレーンを主力商品とする洋菓子部門「ワンハリエ」とともに展開し、売り上げを伸ばしてきた。「先鞭後利」をモットーに、近江の歴史・文化を継承するNPO法人の設立や「安心・安全・健康」の食材を追求する自社産物の流通など、「三方よし」の近江人道を堅持し歩んできた「たねや」の歴史。これの取り組みは今年二月初、第5回近江一貫賞受賞に輝いた。「新しい道は人の道」を理念とする山本徳次社長(67)は、135年の歩みと今後の夢を語って



NPO法人「たねや近江文庫」の書庫には近江に関する幅広い分野の書籍が収蔵されている。

式日本橋三越本館への出店の話が来まし

「実は出店が決まる前に、試験販売のお誘いがありました。でも、「商社に真逆の試

「CSR(企業の社会的責任)の重要性が叫ばれる中、近江商人が目指されてい

「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。



お母さんが働く工場の近くにある「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。



木のぬくもりが感じられるような「おにぎり保育園」の内部。

「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。

「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。

「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。

「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。

### 素材を追求して、自社でヨモギ栽培

「そのほかにも水産物や野菜の品質を確保するために、独自の取り組みが注目を集めています。これからのお菓子づくりは、その素材

「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。

「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。

「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。

### 女性が安心して働ける、保育園構想

「従業員の子どもの面倒を見て、お父さんに安心して働いてもらうという思いでつくったのが「おにぎり保育園」です。保育園構想は企業に先駆けていたと思

「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。

「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。

「おにぎり保育園」では子どもたちの明るい声が響いている。



特産の山毛豆産地水産物の産地に広がる「たねや水産物園」。「安心・安全・健康」のお菓子づくりに結ぶ「たねや」の原点でもある。